

第4回富良野市農政審議会 会議録

日 時：平成31年1月31日（木）18:00～19:45
場 所：富良野市役所3階 第3会議室
出席委員：小師和彦委員 佐々木雅志委員 藤野啓一郎委員
亀淵貴史委員 池田勝委員 杉村鉄也委員
小笠原博委員 鶴井敦士委員 猫塚雅彦委員
東山寛委員
※10名参加
市 長：北市長
事務局：上田農林課長 西出主幹 高見畜産係長
石出農業振興係長 農業振興係・志賀

<開 会（司会：上田農林課長）>

●上田農林課長

本日は大変お忙しい中、ご出席賜り御礼申し上げます。ただいまより第4回農政審議会を開会いたします。

<2. 第3次富良野市農業及び農村基本計画（素案）に係る諮問>

●上田農林課長

それでは、最初に第3次農業及び農村基本計画（素案）について、諮問を行います。

●北市長

富良野市農業及び農村基本計画についての諮問。

富良野市農業及び農村に関する施策を総合的に推進するため、富良野市農業及び農村基本条例第15条の規定に基づき、第3次富良野市農業及び農村基本計画（素案）について意見を求めます。

<北市長から小師委員長に諮問文書が渡された後、北市長より挨拶>

●北市長

本日は第4回農政審議会ということで、皆さまには夜分お疲れのところ、お集まりをいただきましたことに御礼申し上げます。今、諮問をさせていただきましたが、第3次富良野市農業及び農村基本計画を策定するにあたり、昨年7月11日に審議会を設置以降、委員の皆さまには慎重にご審議を重ねていただいておりますことに、重ねて御礼申し上げます。

す。

さて、農業を取り巻く情勢であります。働き手が足りないのが深刻化している状況にあります。そうした中、今後どのように現在の生産力を維持し、本市の農業を振興していくか、新たな計画の中でむこう5カ年の方向性を示していかなければなりません。

前段申し上げましたとおり、農業の取り巻く環境は人手が足りない状況であり、人手をどう確保していくか、また足りない中で省力化を図っていくことも同時に求められております。そういう意味では、本市が取り組んでいるスマート農業というのも一つの方法だと思いますし、またこれをどのように拡大・普及していくかということも課題になってくるかと思えます。

それから、明日2月1日から日欧EPAが発効されます。また昨年暮れには、TPP11が発効されました。そうした国際的な経済の中でも、本市の農業、あるいは日本の農業をどのように維持・発展させていくのかということも大きな課題になってくると思っております。

こういった状況の中にもありますが、今、皆さまに諮問させていただいた計画の素案の内容につきましては、これまでの審議会でのご議論、そしてまた関係団体との意見交換を行ってきた内容を積み上げて、作成しております。

委員の皆さまの立場から、また皆さまのこれまで積み上げてこられた経験からご意見をいただきまして、答申くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

また、市といたしましても、皆様からいただいたご意見を真摯に受け止めさせていただき、農業行政に反映させていきたいと思っております。本日の慎重な審議のお願いを申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。

●上田農林課長

市長は別の公務がありますので、ここで退出させていただきます。

<市長退席>

<3. 委員長挨拶>

●上田農林課長

本日の審議会ですが、インフルエンザ等で欠席されている方が数名いらっしゃいますが、皆さまご参加いただきましてありがとうございます。それでは小師委員長より挨拶いただきます。

●小師委員長

皆さまお疲れ様でございます。夜分遅く、また天候も悪く悪路の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。今、市長からお話がありましたがTPP11や日欧EPA等、世界情勢が動いております。「国のこと」というのは遠いことで、私たちには実感がな

いものですが、確実に農業が変遷していくと思っております。

これまで3回にわたり、皆さまと協議してきた市の基本計画の中身ですが、第4回目の審議会にあたりまして、議論してきた中身が今回の計画に反映されているかどうか、確認いただきたいと思っております。

また、審議会で議論し計画に反映されたものが、すぐに実行に移せるかについては、今後、各関係機関との協議とも関わってきますが、この計画が市の総合計画の中の一助となつて、さらに各年度の予算に反映されていくと伺っております。

今の時代、小さな改革では中々世の中の流れに追いついていけないという風に思っておりますので、ぜひとも私たちが計画の実践に向かって、個々においても取り組みをしていかなければならない部分がありますし、行政の方も各関係機関の方々と協議をしていただきながら、良い本市の農業をつくっていきたいと思っております。

本日は最後の審議会になるかもしれませんが、今までの話し合いのすべてが詰まった資料となっております。資料については事前に皆さまに配っておりますので、会議についてはなるべく省略できる部分は省略して進めてまいりますので、ご協力をよろしく願いいたします。

●上田農林課長

ありがとうございました。この後の進行につきましては、小師委員長の進行で進めていただきます。委員長よろしく願いいたします。

< 4. 審議 >

●小師委員長

それでは早速審議に入らせて頂きます。

審議事項（1）第3次基本計画（素案）に係る審議について事務局より説明をお願いします。

●事務局

素案の中身に入る前に、これまで各種団体との意見交換をしてきております。それをまとめたものが資料1となっておりますのでご覧ください。

< 以下、資料1「各団体との意見交換で出された主な意見まとめ」について説明 >

今ご説明した各団体との意見交換と、これまでの3回の審議会での議論の内容を反映したものが「第3次富良野市農業及び農村基本計画（素案）」となっております。

< 以下、「第3次富良野市農業及び農村基本計画（素案）」Ⅰ章からⅢ章まで説明 >

●小師委員長

今、事務局から素案について説明がありました。

資料についてはご確認されていると思いますので、割愛させていただいた部分がありますが、ご理解されているということで進めさせていただきたいと思います。

ご説明したのは41ページまでということで、今回の計画の中心的な部分になるかと思えます。委員の皆様から何かご意見ございませんか。

●猫塚委員

12ページの「主要作物の振興及び生産条件整備」のところですが、市長のお話の中にも、雇用確保とICT技術活用によるスマート農業という言葉が出ていました。計画の中で、「土地利用型作物」の部分にはスマート農業という言葉が書いてありますが、実は園芸の部分でもそういったスマート農業の技術、例えば自動開閉システムなどを入れていかなければいけないと思います。そうした時に項目の捉え方として、園芸と土地利用型でおさえるのか、もしくは「スマート農業」として項目立てて1つでやっていくのか、項目を整理してはどうでしょう。5カ年計画なので、「スマート農業」や「ICT」と言い切ると難しい部分があるのかと思いますが、例えば、後半の施策の部分では「省力化機器の導入」と少しにごした表現をしています。計画の核となる部分だと思えますので、スマート農業やICT技術の推進という明確な表現をした方が良いのではないのでしょうか。

●小師委員長

今、12ページの項目立てについて、スマート農業やICT技術という言葉をもう少し強い表現ができないかというご意見だったと思いますが、事務局いかがでしょうか。

●事務局

本市単独でスマート農業促進支援事業という補助事業を実施しております。園芸作物につきましても、ビニールハウスの自動巻上の装置を対象とし、省力化を進めている状況もあります。

園芸作物についても省力化は必要と考えておりますので、それは追記したいと思います。

●猫塚委員

項目立てを一つにまとめるのか、新たに項目立てした方が良いのかは事務局にお任せしますので、宜しくをお願いします。

●事務局

スマート農業は推進すべきと考えておりますので、施策の27ページの方は、具体的な表現として「スマート農業の推進」と記載したいと思います。

●小師委員長

農業者としては、何がスマート農業なのかというのが、少しずつ見えてきてはいますが、まだハッキリ見えないところもあります。データ処理や情報の共有というのが一番重要だと思っています。素案の後段にも記載されていますが、農村では、情報インフラの整備もさらに整備していく必要があると思っています。

また、27 ページについては、今、事務局が言ったようにもっとハッキリしたことが記載できれば良いと思います。

●事務局

27 ページの項目の省力化対策の部分を、「生産現場の課題を解決するスマート農業を推進します」という表現に修正します。スマート農業というのは一般的に、データ処理の相互通信から、クラウドシステムを活用した営農支援ソフト、GPS ガイダンスの自動操舵など多岐に渡ります。

●藤野委員

少し漠然とした意見になるのですが、農村が過疎化していく中で、新規就農者を入れて、生産力や農村を維持していこうというのが、これまでの状況だと思います。

一方で、あと5年経ったら、70 歳以上が何人ぐらいいて、何人が営農できているか。その方々に、スマート農業を持ちかけても難しいのではないのでしょうか。お金をかける必要もない。そういった世代が残っていくことも考えられます。そういった方々をどうするのか。結局インフラを整備してもそれを扱えない方々が出てくるのではないのでしょうか。

また、新規就農者も含めて農村に若者が入ってくる。ただ、学校がなくなるという問題があります。ある農家のお母さんは、農村では十分な学習ができないから、送り迎えをして街なかの学校に通わせる。そうなる朝の時間と夕方はお母さんがいない。農作業ヘルパーを雇えば良いことかもしれませんが、そういった人たちが多くなった場合に、その時間帯は農村に人がいない状態になる。そこのところを行政としてどうするか考えていく必要があるのではないのでしょうか。

●小師委員長

まず、前段の意見について、私は少し違う意見を持っています。

65 歳以上の方が就業人口の3分の1ぐらいいて、その人たちは10 年後にはほとんど抜けていくわけですが、地域全体の持続的な発展を考えていくと、次の担い手に何を残していくかに重きを置いていく方が良いと思っています。切捨てと言われるかもしれませんが、そうしないと次の世代が残れないというのもあるのではと思っています。

ただ、藤野委員が言われた、そういった方がいるというのも事実ですから、その人たちの働き甲斐や、どうやって今後も地域に貢献していただくのか、また、少しでも長く農業を続けていただくにはどうすればいいか、考えていく必要はあると思います。

●藤野委員

新規を入れて農業経営体数を維持していくことも大切ですが、高齢の方や辞められた方を取り込んで、その方々が少しでも長く農業に携わる体制を整えることも必要ではないでしょうか。

●佐々木副委員長

そういった方々は、昔で言えばアドバイザーみたいな形で関わってもらうのも良いのかなと思います。また、計画の中でその細かい部分を載せる必要はないかなとも思います。

答申するにあたっては、やはり前向きな計画にしていくのが良いのではないのでしょうか。働き手も含めた次の担い手に、先人の高い技術を引き継いでいくというのが良いのではないかと思います。

●藤野委員

なぜ、こういった意見を言ったかというのと、農業共済組合の会議のなかで、2040年には農業人口が半減するという試算がありました。そうなった時、富良野市で何戸が残っているのかなと考えさせられました。20年で半減ですから、5年だとその四分の一ですか。そういったこともあり意見させていただきました。この部分は意見ということで、計画に載せるかどうかということではありません。

●東山委員

富良野でスマート農業を何のためにどういう風に進めるのか。

今、土地利用型農業で一番進んでいるJA岩見沢を見ていると、進めるにはまずやりたい人たちがまとまることだと思います。JA岩見沢は200件近くで研究会を作りやっている。そうなれば、例えばGPS自動操舵システムの購入にしても、まとまって入札をするので安くなるというメリットが生まれる。スマート農業をやるのであれば、やりたい人がまとまるかどうかというのが大前提で、その検討が必要ではないでしょうか。

また、JA岩見沢のある方は、50ヘクタールを両親2人含めた3人の家族経営で営農していました。その方は現在、スマート農業を実践していますが、なぜかというのと、両親が農作業をできなくなってしまった。3人の労働力が1人になってしまったということが発端となっています。こういうことは、どの人にもこれからありえると思います。家族経営の労働力問題、そういったことも見据えてやるかどうか。

そして今、新たな技術で、ロボットトラクターがあります。自動操舵はその入り口であって、2020年にロボットトラクター実走ということを目指しています。そこまでのものを見据えて進めるのか。その検討は今後必要だと思いますが、今はこの素案の内容が良いのではないかと思います。

●事務局

計画期間中に確実に出てくる課題として、農地がたくさん出てきます。それを今の機械装備の中ではできないので、スマート農業の導入が必要になります。そういう観点で計画に入れています。高齢者をやめさせてまで大規模化を進めようということではなくて、出てきた農地を引き受けられる状況をつくっていかうというものです。高齢者になっても供給者であり続けてほしいと思っていますし、農村部において人の数というのが一番の活性化ですので、そこにいてもらいたいというのがあります。当面の課題である「農地がたくさん出てくること」と「大規模化」に対応するためスマート農業や省力化に資する取り組みを後押ししましょうということを記載しています。

それから、農村地帯の学校問題について、ご指摘があったと思いますが、JAふらのの役員さんとの意見交換の中でも出たのですが、農村に限らず街なかでも子育てママが働き

たくても色々な制約があって、短時間勤務だとか働けない状況がある。その人たちが安心して働きに出られるようなサポート体制をつくることを市として考えた方が良いのではないかというご意見をいただきました。その部分は専門の計画ではないですが、そういったことも検討しますと表現させていただいております。

●小師委員長

農村だけの問題だけではないと思います。医療や教育、社会インフラなど、ある程度維持されている状況がないと後継者も帰ってきたくないと思います。最低限生活に困らないような社会基盤づくりはしていかないといけないと思います。

また、富良野市だけではなく広域的な目線も必要だと思いますし、住んでいる一人一人がこれからどうしていくかという話合いの場も必要だと思います。そういった意味で、市が多方面にわたり横断的に検討して施策を進めていくようなことが必要だと思っています。

●東山委員

14 ページの女性高齢者の参画のところ、子育て世代の女性が働ける環境をつくるとか、それから 19 ページの女性の参画の推進というところがあって、「働きやすい環境づくりを検討する」とありますが、これは具体的にどういうことか教えてほしいです。

それから、観光客が畑の入り問題というのは、今に始まった問題ではないのですが、観光部局との十分な連携がされているのか、というのが気になったので教えてください。

それから、先ほどの藤野委員の発言と関連するのですが、34 ページの「多様な主体の参画による～」というところで、交流関係人口の拡大というのも非常に良いのだけれど、国の施策の中では「田園回帰」というのがテーマなので、それを入れてほしいです。

それから、市長もおっしゃられていましたが、TPP11・日欧EPA、どういう影響があるかということですが、今すぐにどうこうなるわけではない。長期的に影響を見ていけないといけない。また、みんなが等しく影響を受けるということは、ないだろうと思っています。先進的に取り組んでいる人たちが影響を受けやすいのではと思っています。

日欧EPAに関しては、チーズやワインも影響があるのですが、富良野は両方あります。

チーズは高級品から低級品までありますが、低級品はEPAによって国産から外国産に置き換わると考えられ、大手メーカーでは家庭消費用にシフトしてきている。

一方、高級品の方は、淘汰されるというのが心配で、選ばれるチーズを作らないといけない状況になってくると思います。それはワインの世界もそうだと思います。この計画の中で対策の取り組みが必要なのか難しいところです。

●事務局

まず子育て世代の女性の働きやすい環境づくりについてですが、この計画は農業の専門計画ですので、子育て支援的なものではなくて、農業に貢献するという意味で、安心して働きに出やすい環境づくりのサポート体制が必要だということをうたっています。

ただ専門部局ではありませんので、要請していくということで抽象的な表現にさせていただきました。

次に、34 ページのところですが、ご指摘の通り「田園回帰」という表現を入れさせていただきます。

それから観光客が畑に入る問題についてですが、観光サイドとしても観光客が来ているのはこの農村風景があるからだと思っています。農業を大切にしていかなないと観光客も減少していくという認識があります。パンフレットに掲載したり、啓発チラシを配布したりしております。ただ、それだけではなかなか伝わらない部分もありますので、観光協会の観光ボランティアなどに対して、啓蒙や勉強会をしませんかという話をしております。

それから、TPP11 と日欧EPAの関係ですが、チーズとワインの影響はあえて記載しておりません。おそらくお土産品としての利用が多いことから、影響も少ないだろうと思っております。また、ワインについても担当部局からは、直売率が高いので影響は少ないだろうと聞いております。

●東山委員

わかりました。インバウンド需要に応じていくということであれば、あまり影響がないかもしれませんね。

●小師委員長

それでは、東山委員からご意見がありました。農村の維持及び振興に関する施策の中に、「田園回帰」という文言を入れていくということによろしいですか。

●全員

はい。

●藤野委員

41 ページの市内流通の確保という部分で、フラノマルシェやスーパーは分かるのですが、観光の拠点であるコンシェルジュも入れる必要があるのではないのでしょうか。現状として多くの店が集まっているわけではありませんが、広場もあるし発信する拠点として活用できるのではないのでしょうか。

●事務局

40 ページの「富良野農業・農村に対する理解の促進」のところの「農業や農村の魅力を伝える活動を支援します」のところに、コンシェルジュ等による情報発信を強化しますという一文を盛り込みます。

●小師委員長

それではここで一旦切って、残りのIV章以降を事務局より説明をお願いします。

●事務局

第IV章施策体系と主要事業ということで、今後5年間どういった事業が必要になってくるか、またどこが担うべきかをまとめたものとなっております。既存の事業が行うこと、また拡充が必要なもの、新たに施策の検討が必要なものということで記載しております。

<以下、「第3次富良野市農業及び農村基本計画（素案）」IV章を説明>

●小師委員長

事務局から説明がありましたが、IV章も含めて全体を通して皆さまから何かありませんか。

特になければ最後に東山先生から全体を通して何かありませんか。

●東山委員

農村の施策の部分で、北大との連携について位置付けていただいております。

今回の柱の一番は、働き手確保のシステム作りだと思います。検討すべきことはたくさんあり、これから実践に移していく訳ですが、地域で継続した検討を進められ、実を結ぶようになれば全道的にも先進的な取り組みになると思います。私はこの手の計画にいくつか携わっていますが、作ってしまったら後は見ない計画になりがちですが、これはしっかり整理されていて、これからも見ると思います。私にできることがあればお手伝いしたいと思います。

●小師委員長

ありがとうございます。今ご指摘にあった通り、計画の内容について、今後、市と関係団体、農業者が一体となって継続討議していくということをこの場で確認をしたいと思います。

それでは、本日、修正・加筆等の部分もありましたが、これにつきましては事務局で整理した中で、審議会としてこの素案の内容について異議がないものとしてよろしいですか。

●全員

はい。

●小師委員長

それでは、次に答申（案）の審議に移りたいと思います。今、お配りしている答申（案）について事務局より説明をお願いします。

●事務局

計画の素案を審議いただきましてありがとうございました。

今後この計画を進めるにあたっての意見ということで、計画の素案に、この答申（案）を付して市長に答申したいと思います。

また、先ほど委員長から施策については広域的、横断的に実施していく必要があるという意見がありましたが、それにつきましては、答申（案）のなかに記載しております。

<以下、「富良野市農業及び農村基本計画について（答申）（案）」について説明>

●小師委員長

皆さん、ご意見ありますでしょうか。

●全員

ありません。

●小師委員長

それでは、この内容で答申いたします。

これにて審議を終わりたいと思います。その他について事務局からお願いします。

●事務局

<今後のスケジュールについて説明（進行次第参照）>

●小師委員長

昨年の7月から審議会を開かせて頂きまして、皆さまのご協力により計画の素案が出来上がりました。皆さまのおかげで任を務めることができました。誠に感謝申し上げます。

閉会にあたりまして、佐々木副委員長から御挨拶申し上げます。

●佐々木副委員長

皆さま大変ご苦労さまでございました。昨年の7月からこの間、非常にお忙しい中、お集まりいただき慎重にご審議をいただきました。貴重なご意見をいただいたことに感謝申し上げます。

先ほど市長への答申もできました。この中に5つの項目がありますけれども、しっかり市長へ伝えていきたいと思います。事務局を中心にご尽力いただき、計画の素案が出来上がりましたが、今後、この計画の内容を確認しながら、持続性のある農業の発展に向けた活動を進めていければ良いのかなと思いますので、これからもよろしく願いいたします。

●小師委員長

ありがとうございました。それでは事務局に進行を移したいと思います。

●上田農林課長

小師委員長ありがとうございました。計画の素案は、表現の仕方や若干の文言の微調整を事務局の方でさせていただきます。

長時間にわたりまして審議を重ねていただきましてありがとうございました。

最後に、市で平成31年4月から予算化を検討しているいくつかの事業をご紹介します。

1つ目は農家子弟の就農促進に関する事業、2つ目は畜産の方で、串内牧場の哺育育成センター設置や管内の草地更新の事業が始まります。それから3つ目が、南富良野から山部にかけて空知川上流土地改良区の管轄区域で、国営の基盤整備事業の調査事業がスタートします。それから一番大きな課題であります働き手確保対策については、少し時間をいただいて対策のメニューを打ち出していきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

それではこれにて第4回農政審議会を閉会します。ありがとうございました。